

考古・歴史・民俗の頭文字を取って考歴民（これみ）と名付けました。

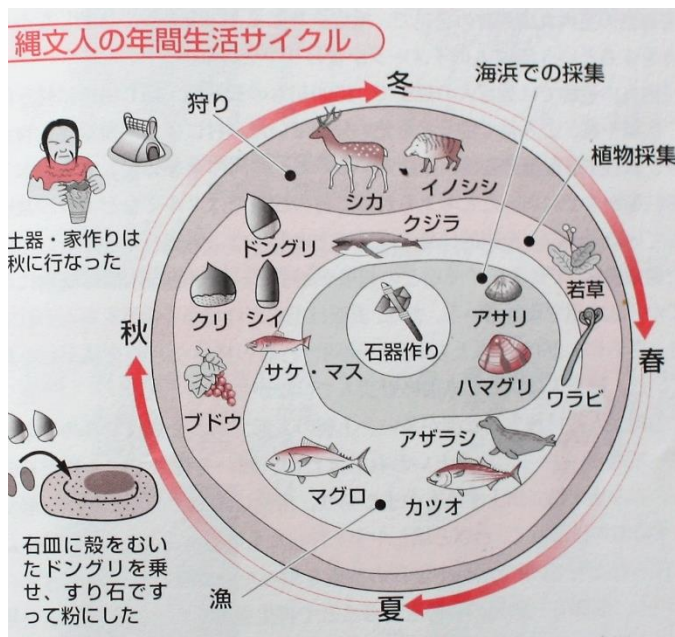
縄文時代とは

=1万年も続いたのどかで平和な時代=

日本が完全に大陸から離れて島国（本州島・北海道・九州島・四国島）になったのは、気候の温暖化で海面が上昇した1万2000年前ごろのこととされている。

その後、動植物相も変化し、大型動物が絶滅してシカやイノシシが増えた。東日本にはブナ、ナラなどの落葉広葉樹林、西日本にはカシ、シイなどの照葉樹林が広がった。

縄文時代は約1万2000年前に始まり、1万年も続いた時代で、人々はクルミやクリ、ドングリを主食とした。人間同士が互いに武器をとって殺し合う戦争もなく、のどかで平和な時代だったとされています。



=縄文土器の誕生で食生活が豊かに=

人類は約1万年前より以前の旧石器時代（先土器時代）を通じて長い間、石と木と骨、角（弓矢）などでできた道具だけで、狩猟・採集生活を過ごしてきたが縄文人は土器の発明によって「煮炊き」・「アク抜き」・「貯蔵」することで食生活が豊かになった。

縄文土器には口が広くて底が深い「深鉢形」のものが多く、一方、土器の底の形は、時代とともに丸底へと移り

変わっていった。

縄文中期以降になると、把手や口縁部に口をつけた「注口土器」、黒漆の地に赤漆を塗った「亀ヶ岡式土器」など、多様な土器が登場する。

ただし、食糧生産経済の本格化には至らず狩猟採集経済が継続しており、豊かな自然環境を大いに活用することによって可能となったものである。

=縄文時代という名称の時代区分=

縄文土器の多様性は時代差や地域差を識別する基準として有効であり、時期区分について次のとおり

草創期 約1万3千年前-約1万年前

豆粒文土器・隆起線文系土器・爪形文系土器・押縄文系土器（多縄文系土器）。女性像を線刻した小礫が作られる。

早期 約1万年前-6千年前

圧煮炊き用の土器の出現が旧石器時代の生活を変えた。

縄文・燃系文の尖底土器が作られた。夏島貝塚から燃系文系土器、貝殻沈線文系土器、貝殻条痕文系土器という早期から終末までの土器が層位的に出土した。小型の土偶が作られる。

前期 約6千年-5千年前

この期を境に土器の数量は一気に増加し、形や機能も多様化し、平底土器が一般化する。土器は羽状縄文を施した織文土器が盛んに作られる

中期 約5千年前

土偶などの呪物が盛んに作られる。立体的文様のある大型土器が流行する。

後期 約4千年-3千年前

村の一角に土器塚が出来る。土器を使った製塩の痕。

晩期 約3千年-2300年前

山の寺式土器・柏崎式土器(夜臼式土器)

まとめ

■旧石器時代の人々は、キャンプ生活・遊動生活を営みながら頻りに移動生活を繰り返してきた。

■旧石器時代から縄文時代への移行期である草創期には一時的に特定の場所で生活する半定住生活を送るようになっていた。

■草創期・早期・前期・中期・後期・晩期の6期に区別される

■縄文早期になると定住生活が出現する。

■縄文時代は1万年という長い期間にわたり、大規模な気候変動も経験している。

■また日本列島は南北に極めて長く、地形も変化に富んでおり、現在と同じように縄文時代においても気候や植生の地域差は大きかった。

■結果として、縄文時代の文化形式は歴史的にも地域的にも一様ではなく、多様な形式を持つものとなった

■約2万年前に最終氷期が終わってから6000年前頃までは、地球の気温は徐々に温暖化していった時期である。

■この間に日本列島は100m以上の海面上昇を経験している。

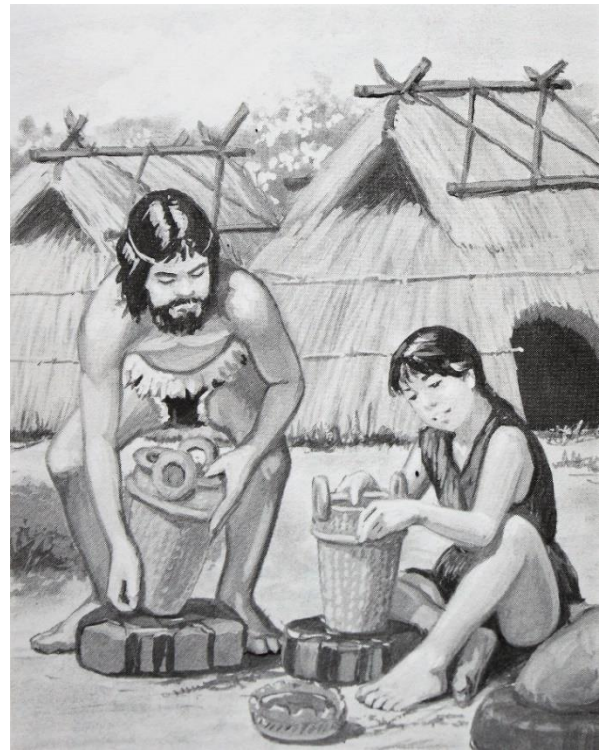
■縄文土器編年区分においてはこれは縄文草創期から縄文前期に相当する(13000年前-6000年前)。

■また、約6000年前には海面が現在より4m~5m高く縄文海進と呼ばれており、海岸部の遺跡の分布を考える上で参考になる。

■北海道・北東北(縄文遺跡群)世界遺産決定!!!



さんないまるやま
三内丸山遺跡(大規模拠点集落跡・青森市)



土器づくり

縄文土器の文様

無文土器(むもんどき)

押型文土器(おしかたもんどき)

条痕文土器(じょうこんもんどき)

庄痕文土器(あっこんもんどき)

刺突文土器(しとつもんどき)

沈線文土器(ちんせんもんどき)

隆線文土器(りゅうせんもんどき)

刻目突帯文土器(きざみめとったいもんどき)



神宮寺式縄文土器

縄文時代に残した、神宮寺式縄文土器・星田旭縄文住居跡遺跡から何が見えてくるか?

縄文人の生活を垣間見ることができるでしょうか?

縄文パートII 次号8/16